

再 評 価 書

箇所名	東又谷	事業名	治山事業	課名	治山林道課
事業概要	工期 (下段当初)*	H24年～R7年	全体事業費 (下段当初)*	1,300百万円(負担率:国50:県50)	
		H24年～R2年		955百万円(負担率:国50:県50)	
事業目的及び内容					
<p>1 当該箇所の概要 本地区は、三重県から和歌山県に広がる紀伊山地の中腹、標高200m～760mに位置し、年間降水量が3,000mmを超える多雨地域です。 本地区では、平成23年9月の台風12号豪雨により、東又谷支流において、大規模な山腹崩壊が発生しました。崩壊土砂は、下流域の溪岸を侵食流下して、桧原谷川との合流点まで達しました。崩壊土砂量は約195万m³を超過するものと想定され、特に発生源から東又谷本流の合流点までの区間には、幅90～150m程度、深さ25～35m程度の不安定土砂が異常堆積しました。</p> <p>2 事業目的 溪床に堆積した不安定土砂の移動抑止、山腹斜面の山脚固定、流木の捕捉及び溪岸侵食の防止を図り、荒廃した溪流を早期に復旧することにより、下流の民家や国道の保全を図ることを目的としています。</p> <p>3 事業内容 ・事業期間：平成24年～令和7年(14年間) ・総事業費：1,300,000千円 ・全体計画：谷止工(コンクリート)2基、谷止工(鋼製スリット)1基、谷止工(インセム)1基、 流路工(床固工2基含む)273.3m、植栽工1.4ha</p>					
事業主体の再評価結果					
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>平成24年に事業採択後、一定期間(10年)を経過した時点で継続中の事業であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(2)に基づき再評価を行いました。</p>					
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1) 事業着手 平成24年度に全体計画調査実施、同年度谷止工(コンクリート)に着手、現在は流路工を施工しています。</p> <p>(2) 進捗状況(令和3年度末の事業量) 完了：谷止工(コンクリート)1基、谷止工(鋼製スリット)1基、谷止工(インセム)1基 流路工(床固工1基含む)239.7m、植栽工0.8ha 事業費：930,231千円(進捗率71.6%)</p> <p>(3) 今後の見込み 残計画：谷止工(コンクリート)1基、流路工(床固工1基含)33.6m、植栽工0.6ha 完了年度：令和7年</p>					

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

近年異常気象による災害が日本各地で頻発していることもあり、地域住民の降雨災害に関する危機管理意識が高まっており、当事業の早期完了が強く望まれています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

(1) 事前評価時の費用対効果分析の結果

	事前評価 (基準年: H24年)
便益 (B)	1,349,899千円
費用 (C)	767,406千円
分析結果(B/C)	1.76

(2) 今回の費用対効果分析の結果

	区分別評価額	合計
便益 (B)	水源涵養便益 575百万円 山地保全便益 1,169百万円 環境保全便益 43百万円	1,787百万円
費用 (C)	1,376百万円	1,376百万円
分析結果(B/C)	1.30	

4-2 地元意向

1級河川宮川への土砂流出抑止や人家・国道等の保全を図るためにも、大台町より当事業の継続と早期完了が望まれています。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

東又谷支流の不安定土砂が異常堆積した区間に施工する谷止工・床固工について、現地の不安定土砂を申請材として利用するインセム工法を採用し、コスト縮減及び不安定土砂の有効活用を図っています。

5-2 代替案

代替案として、土砂撤去が考えられますが、堆積土砂が大規模であるため、排土にかかる期間が長期にわたること、また、残土処分場の確保が現実的に困難であることから、本事業を実施していく以外に代替案はありません。

再評価の経緯

再評価の経緯はありません。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。